

# 非都市部の中小規模病院における外科系 病院総合診療医としての場と貢献できること

八巻孝之<sup>†</sup>

IRYO Vol. 78 No. 4 (209-215) 2024

## 要旨

2020年4月、国立病院機構宮城病院は「総合診療外科」を開設した。地域や病院が求めている総合診療のあり方を追求しているが、単独体制のため制約もある。東日本大震災からの創造的復興を推進するため、当院は宮城県亶理郡の亶理町・山元町と相互協力協定を結び、さまざまな取り組みを行っている。しかし、中小規模病院において深刻化している医師不足・診療科偏在問題に直面し、特に、包括的医療においては、マンパワーのない臓器別専門医の負担が増加している。離島や山間地のへき地医療を担う診療所や小規模病院における総合診療医の活躍の場は明らかである。大病院においても、コンサルタント、ゲートキーパー的な役割が存在する。このように、医師不足や診療科偏在の問題を含む立地条件や病院の規模によって、病院に求められる総合診療医の役割は異なる。人口減少社会が求めている地域の包括的医療とケアを実践するためには、総合診療のトレーニングを積んだ病院総合診療医が当院のような中小規模病院に勤務し地域に根付くことが近未来の一つのモデルであるが、著者と同様、他診療科から総合診療への転向医が活躍できる場を広げ、その支援と育成に着手する取り組みは、病院管理者にとって喫緊の課題である。

キーワード：病院総合診療医，医師不足・診療科偏在問題，包括的医療とケア

## はじめに

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて日本の高齢化が急速に進行している<sup>1)</sup>。2018年4月にスタートした新専門医制度では、総合診療科が19番目の新たな基本領域として加わった<sup>2)</sup>。そして、2020年度の医学部入学者数は、「地域枠」入学者が全国の医学部募集定員の18.2%まで増加した<sup>3)</sup>。人

口減少社会において、総合診療科のニーズが高まっている現状に異論はない。一方、超高齢社会を迎える日本では、包括的医療の需要が日に日に高まっているが、総合診療科が新専門医制度に加わってまだ日が浅く、その需要に対して総合診療医の数はまだまだ足りない。日本専門医機構理事長の寺本民生氏は、2021年度開始の専門研修で全国9227人の専攻医が採用されたと説明した。専攻医の領域別割合では、

国立病院機構宮城病院 外科（院内標榜：総合診療外科）<sup>†</sup>医師

著者連絡先：八巻孝之 国立病院機構宮城病院 総合診療外科 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100

e-mail : yamaki821@gmail.com, yamaki821@nifty.com

(2023年4月4日受付 2024年4月19日受理)

The Opportunity to Contribute as a Surgical General Physician in a Small to Medium-sized Hospital in a Non-urban Area

Takayuki Yamaki NHO Miyagi Hospital

(Received Apr. 4, 2023, Accepted Apr. 19, 2024)

Key Words : physician belonging to hospital general medicine, problems of shortage of doctors and uneven distribution of doctors, medical care for the elderly